

議会だより

伊那市議会事務局

TEL 02665-96814 9
FAX 02665-76911 7
E-mail gk@inacity.jp



伊那市議会3月定例会では37議案と請願・陳情4件・委員会提出議案1件が提案され審議を行いました。今定例会に上程された議案を紹介します。

全会一致で可決された議案

(一般案件)

◆ 辺地に係る総合整備計画に
ついて

◆ 財産(建物)の譲与について

(条例案件)

◆ 伊那市長の選挙における選挙運動用ビラの作成の公営に関する条例の一部改正

◆ 伊那市教育に関する事務の職務権限の特例を定める条例

◆ 伊那市組織条例及び伊那市50年の森林(もり)ビジョン推進委員会条例の一部改正

◆ 伊那市職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部改正

◆ 伊那市積立基金条例の一部改正

◆ 伊那市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正

◆ 伊那市保育園条例の一部改正

◆ 伊那市新産業技術推進協議会
条例の一部改正

◆ 伊那市転作促進研修施設条例
を廃止する条例

◆ 伊那市営住宅条例の一部改正

◆ 伊那市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

◆ 伊那市学童クラブ条例の一部
改正

◆ 伊那市水道布設工事監督者及び水道技術管理者の資格等に関する条例の一部改正

(予算案件)

◆ 平成30年度補正予算

◆ 一般会計(2議案)

◆ 特別会計(5議案)

◆ 企業会計(3議案)

◆ 平成31年度予算

◆ 特別会計(5議案)

◆ 企業会計(3議案)

(委員会提出議案)

◆ 伊那市議会委員会条例の一部
改正

賛否の分かれた議案等(審議結果と各議員の賛否一覧)

○…議案、請願・陳情に賛成 ×…反対 ☆…趣旨採択
なお、原則として議長は採決に加わりません

区分	件名	委員会結果	池上直彦	小林眞由美	田畑正敏	馬場毅	原一馬	松澤嘉	三澤俊明	宮原英幸	白鳥敏明	二瓶裕史	野口輝雄	唐澤千明	唐澤稔	宮島良夫	飯島進	飯島光豊	柴満喜夫	前田久子	柳川広美	飯島尚幸	黒河内浩(議長)	本会議結果	
条例案件	◆伊那市国民健康保険税条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	可決
	◆伊那市鍼灸治療所条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	可決
予算案件	◆平成31年度伊那市一般会計予算について	可決	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	可決
	◆平成31年度伊那市国民健康保険特別会計予算について	可決	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	可決
請願・陳情	◆「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の提出を求める陳情	趣旨採択	☆	☆	☆	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	○	☆	☆	○	☆	○	趣旨採択
	◆国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める陳情	不採択	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	○	不採択
	◆選択的夫婦別姓制度の法制化を求める意見書の提出を要望する陳情	趣旨採択	☆	☆	☆	○	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	○	☆	○	☆	☆	○	☆	○	趣旨採択
	◆国保税値上げ中止を求める陳情	不採択	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	○	不採択

3月定例市議会

一般質問から

伊那市議会3月定例会の一般質問は、3月6日、7日、8日の3日間にわたって行われ、19人の議員が質問に立ちました。質問と答弁の主な内容をお知らせします。



馬場毅

持続可能な国保のために

問 馬場毅議員 協会けんぽの2倍以上、所得の1割以上という非常に高い負担率の国保税は、他の保険料に比べあまりにも重すぎる。市長の見解と国に対して意見を挙げる考えは。

答 市長 加入者の平均所得が低くなり、保険料負担率は上昇していく、という制度の構造が負担率の差に表れていると考える。市長会では国庫負担割合の引き上げなど、国保財政基盤の拡充・強化を図り、国の責任と負担において実効ある措置を講じるよう求めている。伊那市としては国保制度が

市独自の負担軽減策を

問 馬場毅議員 国保税は、生まれたばかりの赤ちゃんにも課税される均等割で、低所得者や多子世帯にとって大変負担が重い。市独自の軽減施策が必要ではないか。

答 市長 子育て支援の観点から、子育て世帯への負担軽減を図る制度の必要性は感じている。市長会でも従来から子供に関する均等割額の軽減制度の創設を国に要望している。伊那市でも県内あるいは県外、国の動向を見ながら、子育て世帯の負担軽減について今後判断していく。

将来にわたって安定的かつ持続的な運営ができるよう、また、国による財政支援を含めて健全な運営ができる制度となるよう市長会を通じて強く要望したい。



野口輝雄

総合的に自然観察ができる自然公園(ネイチャーパーク)の設立について

問 野口輝雄議員 鳩吹クリーンセンターの跡地利用にも関わるが、鳩吹公園一帯に市民も児童も集える自然公園を設立するのはどうか。

答 市長 跡地利用については検討が続いているが、屋根のない博物館構想の拠点としてや、西山地区の活性化を含めて何が必要でどの様な姿が望ましいのか、関係する皆さんと検討していきたい。

中学校の部活動時間等の今後の動向について

問 野口輝雄議員 部活動に

関して県のガイドラインを基に、関係する方々の共通理解を取りながら、市独自の明確な指針を作り、実施後の管理体制もきちんとすべきではないか。
答 教育長 県の方針と同様に、生徒の成長を第一に考える部活動として、市独自の指

針を作成する。

友好都市関係を観光客誘致に活用できないか

問 野口輝雄議員 インバウンドに対する情報発信を強化するとともに、国内の友好都市関係からのスキー観光客誘致ができないか。

答 市長 国道361号を活用した広域観光により誘客を続けたい。スキー観光では、冬の体験型プランも交えて、友好都市の小中学校への働きかけを検討したい。



飯島光豊

東春近下段地域の市営水道用水による機器の故障について

問 飯島光豊議員 ①東春近下段地域に市が供給している水道用水により湯沸かしポット、24時間風呂、加湿器等にカルシウム等の白いスケールが付着し機器を故障させているので対策を。②機器故障について実態調査を。市が調査しなければ私が行うが。③末代まで苦しみ

を味わうのは大変であり、水源を変えることができないか。
答 市長 ①水質基準内であり、市として対策する考えはない。②調査する考えはないが近くに住んでいる職員から聞き取る。③水源の付け替えや企業団の水を持つて来ることが可能か、担当に研究させたい。

伊駒アルプスロードルート計画について

問 飯島光豊議員 ①ルートの建設で天竜川に先に橋を架け朝夕の渋滞を解消する考えに変わりはないか。②沢渡地区の渋滞解消に向け、橋を先に架けた時に備えて県道や市道の拡幅改良工事を。③ルートと県道の原新田交差点から西春近大型農道を結ぶ環状線の早期建設を。

答 市長 ①天竜川に橋を架けることが、整備効果を少しでも早く実現させると考える。②車屋大久保線は県が整備を進めており、他の関係路線を含め進捗に合わせて改良工事が進むと考える。③市の道路環状網で「外環状線」の一部と位置付けているが、当面は「内環状線」を進めたい。



三澤俊明

子ども達が将来地元企業に就職するための手立てについて

問 三澤俊明議員 キャリア教育の「環」として、伊那市内の中学2年生全員を対象に実施した「キャリアフェス」について、結果と今後のビジョンは。

答 市長 キャリアフェスは伊那市の産業・文化に触れることによって、自分の未来を考えるきっかけとなる。地域にどんな仕事があるのかも知らないまま大きくなり、進学し、そのまま都会に就職してしまう。その流れを断ち切って、自分達の足元を知ろうとするものであり、継続が大事である。今後も続けていくつもりである。

問 三澤俊明議員 伊那商工会議所青年部が実施した、小学生を対象とした職業体験型キャリア教育「このまちのおしごとっこ」は、将来子どもへの伊那への就職を促す起爆剤になると思うが見解は。

答 市長 キャリア教育は産学官で取り組むもの。今回産業界が主体で行われたことに意義がある。今後も継続を願う。

問 三澤俊明議員 技術家庭科の授業の「環」で、企業に出向き、金属加工の様子等を生徒に見学させるのは可能か。

答 三澤俊明議員 技術家庭科の授業の「環」で、企業に出向き、金属加工の様子等を生徒に見学させるのは可能か。が、技術者を学校に招いての実演は可能と考える。



二瓶裕史

インターネットトラブルから子どもたちを守るために

問 二瓶裕史議員 ①安心・安全メールを積極的に活用しては。②小中学校での情報モラル・リテラシー教育は重要であると思うが。③小中学校において市独自のカリキュラムを作成して指導を徹底しては。

答 市長 ①有効な情報提供となるよう、発信回数を増やしていきたい。③学校からの要望があれば消費生活講座等で啓発を行う。

答 市長 ②年齢、学年に即して適切な教育がされる必要がある。中学校では著作権や発信した情報についての責任が重要であるとして扱っている。③ICT活用についての指導計画策定について検討している。モラルやリテラシーが身に付く教育の研究が学校ごと進められていくことが必要。

地域にある空家問題について

問 二瓶裕史議員 ①相続放棄をしても財産管理人が選任されるまでは管理義務が継続する。安易な相続放棄を助長しないためにも周知が必要では。②空家の状況改善や除却を促すような誘導的な指導が必要であると思うが。

答 市長 ①適正管理や利活用について広報していきたい。②自主的に撤去することが本来の姿。現在の方法に加えて更に研究していく。



田畑正敏

第2次伊那市総合計画「防災拠点としての機能を備えた道の駅構想」について

問 田畑正敏議員 「防災拠点としての機能を備えた道の駅構想」の考え方は。

答 市長 有事の際の住民の避難場所や復旧作業の拠点としての活用等、市民の安全安心確保の観点から、道の駅に防災拠点としての機能を備えることは必要と考えている。

問 田畑正敏議員 現在、富県・東春近地域と竜東地域の2カ所が候補予定地となっているが、道の駅の設置場所はどのように絞り込んでいくのか。

答 市長 伊那バイパスは2021年度に福島く若宮の暫定供用の目標と聞いており、伊駒アルプスロードは2月25日に都市計画決定された。今後の各道路の開通時期、整備の進捗状況を見据えながら決定していきたい。

地域を守る防災組織体制の強化について

問 田畑正敏議員 伊那市消防団としてポンプ操法大会、ラップ吹奏大会開催の方向性について考えは。

答 市長 平成31年度は予定通り実施する。次年度以降も大会の取り止めや見直しは考えていない。

問 田畑正敏議員 消防団OB、消防署職員OB、医療従事経験者等の協力を得て新たな機能分団を作れないか。

答 市長 現段階で機能分団の拡充は考えていないが、自主防災組織に参画いただきました



白鳥敏明

地域と連携を密にした公共交通の推進について

問 白鳥敏明議員 お手軽乗合タクシーの経路変更や停留所新設は、利用者アンケート結果による実施か。また、1便当りの乗車人員目標は。

答 市長 各路線には、「路線を守り育てる会」を設置している。区長、民生児童委員、高齢者クラブ等の役員が参画し、地元要望を提案いただき、路線運行に反映している。1便当りの乗車人員は、2人以上を目標としている。

問 白鳥敏明議員 AI自動配車システム(ドアツードア乗合タクシー)の基礎調査・分析計画は。

答 市長 有利な財源を確保し、2019年度は全市域対象に基礎調査、20年度は実証運行を継続実施し、21年度の本格運行を目指す。調査内容は検討中だが、アンケート調査も想定し、地域公共交通の空白地帯の解消と、地域間格差是正を図り、市民ニーズに合ったシステムを構築していきたい。

問 白鳥敏明議員 現状の各地域のデマンドタクシーを、まずはマニュアル配車のドアツードア乗合タクシーに変更し、将来AI自動配車乗合タクシーにつなげては。

答 市長 AIを使いより効率的かつ広範囲に、市全体を視野に入れた交通体系を考えている。まずは21年度の本格

運行の実現を最優先に取り組みたい。3月に行う実証実験の利用者事前登録者数も多く、期待の大きさを感じている。



唐澤千明

オープンから20周年を迎える「みはらしファーム」の発展について

問 唐澤千明議員 ①高齢化による後継者不足やお客様に対応する人が不足しているなど意見がある。経営戦略会議などで適切な対応を望むが考えは。②今のままでは厳しい羽広荘の存続に向けて市長の考えは。

答 市長 ①オープン当時からメンバーの高齢化が進んでおり、後継者は重要な問題。それぞれの施設、組織で努力してもらおうとともに、市としてもできる限り協力する。②施設の老朽化や利用者ニーズに合わない設備であり、年々利用者が減少している。一方で、宴会などで地元の皆さんの利用も多い。このままの状況で継続していくことは難しいが、市としては廃止前提ではなく、利用者の動向を

調査したうえで、改修の可能性、必要な規模、周辺施設との連携などを考えつつ、あり方について検討していく。

伊那市道の除雪作業について

問 唐澤千明議員 地区で生活道路の除雪をしてい

るが、重機等による除雪作業を依頼した時の補助を望むが考えを。

答 市長 直接経費の補助は考えていないが、豪雪など緊急の場合は、区長からの相談を受けて、市で対応する。



宮原英幸

空家対策の進捗について

問 宮原英幸議員 空家対策計画策定後の対応が遅すぎるとはいかないか。

答 市長 昨年条例制定後、関係先へ推薦依頼し、協

議会委員が1月に出席した。特定空家候補選定の遅れがあり、今後は体制を強化し推進する。

問 宮原英幸議員 次年度予算に計上されていないが、基礎調査後の実態調査はいつか。

調査したうえで、改修の可能性、必要な規模、周辺施設との連携などを考えつつ、あり方について検討していく。

答 市長 職員や地域住民等の協力も得て、お金をかけずに実施していきたい。

問 宮原英幸議員 廃屋等取壊し補助を拡大しては。

答 市長 個人所有財産であることや財政負担が伴うため状況を見て対応する。

問 宮原英幸議員 空家情報地域とも共有するネットワークを作つてはどうか。

答 市長 個人情報保護等を踏まえ連携を検討していく。所有者にも積極的に管理を促す。

高遠石工に関連し、文化財保護及び観光資源としての活用について

問 宮原英幸議員 伊那市指定有形文化財以外の石仏管理はどうするか。

答 教育長 管理義務は所有者であり、各地域では大切に管理されている。文化財補助金等活用し、盗難・毀損対策をしてほしい。

問 宮原英幸議員 石仏の多い杖突街道・秋葉街道は上下伊那の広域観光ルートとして展開してはどうか。

答 市長 両街道沿いスポーツトは重要であり、花・食・

山・石工を基軸に、観光局を含めた広域観光施策を統一的に実施する。



松澤嘉

風疹(麻疹)の予防接種の実施について

問 松澤嘉議員 予算計上されている風疹の予防接種の周知と、上伊那全体の感染予防を。

答 市長 今回の予防接種は、上伊那全ての市町村で導入が予定されている。上伊那医師会をはじめ関係機関の協力を得ながら、確実に感染予防につながるよう制度の周知や接種率の向上に努める。

豚コレラのインシシ対策について

問 松澤嘉議員 豚コレラ対策として、死んだインシシを発見した場合の対応は。

答 市長 発見した日時、場所等を市役所耕地林務課に連絡いただき、市から家畜保健所へ連絡をすることになる。豚コレラは、人には感染する事は

豚コレラは、人には感染する事は

ないと言われているが、猟友会員に対してはむやみに触ったりせず、速やかに市まで連絡するようお願いしている。



宮島良夫

改正水道法にともなう伊那市の対応について

問 宮島良夫議員 昨年12月臨時国会における「水道法の一部を改正する法律」の可決成立を受け、市の対応は。

答 市長 今回の水道法改正の目的は民営化だけではなく、総合的な検討が必要であり、早急に結論が出るものではない。当面は経営の健全化を優先し、公営企業としての役割を果たしていく。今後も国の動向を注視していくが、民営化ありきではない。

問 宮島良夫議員 上伊那村が箕輪ダムを水源としており広域化も考えられるが市長の見解は。

答 市長 改正水道法は水需要の減少、施設の老朽

化、水道技術者の不足などの課題に対応するため、広域化を推進することとしている。今のところ具体的な動きはないが、広域化のメリット、デメリットを見極めながら判断していきたい。

東春近県道整備について

問 宮島良夫議員 東春近の車屋大久保線、伊那生田飯田線の改良が進んでいない。関係機関に対し早期の改良を実施するよう要望をお願いしたい。

答 市長 車屋大久保線については、防火水槽の移動に時間がかかっているが、これから工事が進んでいく。県単事業のため予算確保が難しい状況だが、要望を積極的に going to go.



飯島尚幸

関係人口の増加について

問 飯島尚幸議員 ふるさと納税で協力してくれる皆さんの顔が見え心通い合う出会いを増やす関係人口の増加が重要。政府の地方税制の改正案

への見解は。また寄付者へのサーブिसとして、伊那市訪問ツアー、「自分の木植樹」を提案する。

答 市長 総務省の定めたルールに従っているが、地場産品のみルールでは、自治体の創意工夫ではどうにもならない状況である。閉塞的な制度になりつつあり、公平性などの面で問題があると感じている。訪問ツアーは観光関係者と連携し、返礼品としての仕組みを検討する。木を育てるとのアイデアは大事であるが課題もある。バラなどの低木植樹や、山づくりの観点から市の育樹事業、さらには森JOYへの参加等楽しんでいただけると考えている。

問 飯島尚幸議員 重すぎるランドセル問題が国会でも議論され、文科省から「必要に応じ適切な配慮を」との事務連絡が出されている。学校当局への指示、徹底は。

児童生徒の通学時荷物の軽減化について

答 教育長 大切なことなので改めて学校長の対応について指導していく。



前田久子

中央清掃センター跡地利用について

問 前田久子議員 中央清掃センターは56年間ごみ焼却を行ってきた。一部中央行政組合所有の土地があるが、隣接する美原公園を含めると2万2千㎡の広さとなる。解体時の安全対策と跡地利用についての考えは。

答 市長 解体は周辺環境、交通安全に十分配慮し、説明会も随時行う。中央行政組合の用地は市が譲り受け管理する予定。跡地についてはパイパス開通により周辺の土地利用が大きく変化すると思われる。地域全体を見ながら様々な可能性から利用計画を作り、環境調査の結果も踏まえて、地元を示しながら検討していく。

性同一性障害、LGBT（性的少数者）との共生社会実現について

問 前田久子議員 心と体の性別が一致しない事で悩む方々への行政、教育現場での相談体制、認知教育、同性パートナーシップ認証制度導入についての考えは。

答 市長 相談窓口は企画政策課が担当し、職員の手厚いサポートをしていく。また市民、企業を含め、多様性を認める人権感覚の高揚に取り組み。同性パートナーシップ認証制度導入は研究していく。



柳川広美

新年度予算案について

問 柳川広美議員 福祉まちづくりセンターの建替えはどのような構想か。障がいを持つ方がふらっと来て、話ができる場所の確保は。

答 市長 2020年から2021年に建設予定。地域住民の福祉の拠点となり、組織改編により福祉相談課も移

転する。介護保険・地域包括支援センター・障がい者自立支援などの総合的な相談窓口となる。福祉関係団体14団体のほか、公証役場・保護司会事務所も入る予定。分散していたボランティアサロンと喫茶スペースを1階に配置し、誰もが気軽に立ち寄れる交流の場を設ける。

問 柳川広美議員 上・下水道会計は黒字予算であり、消費税分は上がるので引き下げを。

答 市長 黒字分は公共的
必要余剰であり、建設改良や長寿命化などの財源に充てられる。

問 柳川広美議員 奨学金返還支援制度に係る基金を2億円にした理由は。ふるさと納税の寄付目的に加えて基金を増額しては。

答 市長 事業実施期間10年で4億円が必要であり、今年度2億円、来年度2億円を積み立てる。ふるさと納税の使い道として積み立てることも必要に応じて検討したい。

問 柳川広美議員 小黒原産業適地の造成や伊那インター工業団地を拡張して売れる見込みがあるか。

答 市長 小黒原産業適地は複数の食品関係企業から問い合わせがあり、伊那インター工業団地についても具体的に話がある。



「日本子育てしやすいまち」を目指した各種支援事業について

問 小林眞由美議員 幼稚園と保育園の併設により、幼児教育と保育を行う幼稚園化を。

答 市長 就労形態の多様化による3歳未満時の入園希望者増加や、幼児教育を希望する保護者への対応等、ニーズに応えられる体制作りが必要。私立保育園の認定こども園化の支援とともに、公立保育園の認定こども園化も今後検討したい。

問 小林眞由美議員 子育て支援センターに「二時預かり室」の設置を。

答 市長 通常保育とは別のサービスとなることやスペース、職員確保が課題となる。子

育て支援センター利用者の便宜を考慮する中、ニーズに応えられる内容での運営が可能かどうかを検討したい。

問 小林眞由美議員 妊娠からサポートする「子育て支援アプリ」の導入を。

答 市長 各種情報は、対象者へ通知するとともに市報やホームページなどで発信している。導入については、先進自治体の状況や利用者の利便性等を考慮し慎重に検討していきたい。

問 小林眞由美議員 昨年6月定例会でも取り上げたファミリーサポートセンターの取り組み状況を。

答 市長 利用依頼に対しての協力会員マッチングはほぼ対応できている。協力会員養成講座は広く周知し協力会員数の維持を図っていく。一時預かり事業を行う介



自治組織について

問 唐澤稔議員 役員のなり手不足について見解は。

答 市長 役員の選出方法については、各区の事情が異なり、統一的な選出方法がないため、多くの区等で苦勞されている。あらかじめ役職ごとの選出年齢を決める事例もあり、各区の実情に応じたルール作りが有効と考える。役員のなり手不足解消に向け、市も配り物などの負担軽減に努めているが、各区においても業務を見直すなど、負担軽減に取り組んでもらいたい。地区担当職員を配置しているので気軽に相談してほしい。

問 唐澤稔議員 区などにおける女性役員の現状は。

答 市長 今年、一つの区では女性が区長に就任したほか、会計などの役職に就任している区もいくつかある。今後さらに多くの女性が役員等に就任し、女性ならではの視点や強みを活かした新たな取り組みが進むよう、市としても支援していきたい。

問 唐澤稔議員 自治会への加入状況は。

答 市長 加入率は76%前後で推移している。各自治会の基本的なルールをまとめた「地域の教科書」の内容を充実させ、さらなる情報発信に努

めるとともに、各自治会との連携を図っていく。

問 唐澤稔議員 地域住民が安心して暮らせる魅力的な地域づくりに向けての見解は。

答 市長 平成27年に「伊那市地方創生総合戦略」を策定し、人口減少に歯止めをかける各種施策に取り組んでいる。また、新たに創設した協働のまちづくり交付金制度の活用により、魅力的な地域づくりが取り組まれている。



戸草ダム建設推進委員会(仮称)設立について

問 柴満喜夫議員 戸草ダム建設の機は熟したと考えるが見解は。

答 市長 戸草ダムは今後の社会経済情勢の変化に合わせ建設実施時期を検討するとされており、多目的ダムとしては一旦廃止されているが、単目的ダムとしては残っている。近年の集中豪雨・土砂災害に対する社会情勢は大きく変化しており、整

備計画の見直しが必要な時期に
来ていると考える。新たな戸草
ダムの建設に向けて地域の機運
を高め、次のステップにつなげ建
設促進に取り組んでいきたい。

**水森かおりさんを歌う
ふるさと大使に**

問

柴満喜夫議員 新曲「高
遠さくら路」を歌う水森
かおりさんを、歌うふるさと大
使に任命してはどうか。

答

市長 毎年紅白歌合戦
に出場し、人気の歌手で
ある水森さんが高遠の桜にちな
んだ曲を歌っていただけという
ことは伊那市のPRにつなが
ると考える。現在、市のイベン
ト等への参加を調整中であるが、
水森さんご本人も是非お手伝
いを、とおっしゃっていたので、今
後事務所と話をし、前向きに検
討していきたい。



「平成31年度予算」について

問

飯島進議員 平成31年
度予算編成にあたっての
市長の思いは。

答

市長 平成が終わり、新
しい時代が幕明けする。
市としても第2次総合計画の初
年度にあたる。将来像として掲
げた「未来を織りなす 創造と
循環のまち 伊那市」の実現に
向け、予算編成に取り組んだ。来
年度予算は、全てが将来に生き
る重要な布石になるものと思っ
ている。

問

飯島進議員 合併特例
債は合併効果の最たるも
の。期限が迫る中、今後の使途は。

答

市長 現時点では平成
31年度末までに発行可能
額の95%を使う予定。今後の使
途としては、実施計画では小中
学校の改修や給食施設の整備、
環状南線などへの活用を予定し
ている。計画期間の最終年度で
ある平成32年度までに借入可能
額全額を活用したい。

問

飯島進議員 過疎法は時
限法であり永久法を望むが。

答

市長 過疎法は平成32
年度末以降も継続される
ものと考えているが、恒久化を含め
安定した財源となるよう要請し
ていく。

問

飯島進議員 「ふるさと
納税」の法改正で、返礼品
が地場産品に限るとされる。自治
体間格差が生まれると思うか。

答

市長 閉塞的な制度だ
と思うが、法を順守し、
知恵を出しアイデアを出して、
もう一度「ふるさと納税」に取り
組みたい。



移住定住への取り組みについて

問

原一馬議員 新山地区の
移住定住成功事例を、他
地区へ水平展開する試みは。

答

市長 高遠第2第3保
育園の通園区域、伊那西
部地区、溝口地区などの地域の
活力創造につながる積極的な取
り組みを、伊那市として応援す
る。新山地区の成功事例に学び
ながら、関係団体等と調整して
進めていく。地域の機運や受け
入れ環境が整っている、やる気の
ある皆さんが集まって化学反応
を起こす、そういったところに支
援していく。

問

原一馬議員 新山地域の
物件不足への対応は。

答

市長 移住者向けの賃
貸住宅を3棟建設する
予定。運用については地元と調

整しながら進めていく。

問

原一馬議員 移住定住用
地を転用目的として、伊
那市の主導で農地を農振除外し
て、移住定住者のために用地を確
保してはどうか。(毎年数カ所)

答

市長 伊那市が事業主
体として行う地域振興上
必要性が高いと認められる施

設、これに供する用地であれば
事業実施は可能。

農林部参事

農振の除外要件
を満たす必要がある。満たさな
い場合は、農業委員会の同意を
得て、総合計画、都市計画マスタ
ープラン等に位置付け、その中
で進めていく手続きが必要。

お知らせ

請願・陳情

請願・陳情は、定例会開
会前に開催される議会運営委
員会前日正午までに提出され
たものを、その定例会で原則
審査します。

ご提出いただきました請
願・陳情は、定例会本会議で
委員会へ付託し、審査報告の
後、本会議で採決します。

次回6月定例会審査の受
理期限は、5月31日正午です。
(期限は、変更となる場合も
あります。議会事務局へご確
認の上ご提出ください。)

傍聴にお越しく下さい

3月定例会市議会は、54人の
方が傍聴されました。市議会
は、ごなためにお気軽に傍聴
にお越しく下さい。

なお、団体で傍聴される場
合は席に限りがありますの

で、あらかじめ議会事務局ま
でご連絡ください。

議会議中継

議会議中継は、伊那ケーブル
テレビ「伊那市チャンネル」で
放送しています。再放送も行っ
ていますので是非ご覧ください
。チャンネルは次のとおり。

デジタル 11チャンネル

デジタル(STB(デジタルチューナー)で
ご覧になる場合は)

デジタルC 511チャンネル

次回6月定例会の詳しい放
送予定は、「市報いな」6月号
をご覧ください。



黒河内 浩 議長

伊那市議会 平成30年度の政務活動報告



平成30年度の政務活動費の概算と、その用途について報告します。

政務活動費は、地方自治法の規定に基づき、議員の調査研究その他の活動に資するために必要な経費の一部として、議会の会派に対して交付されるもので、伊那市では条例に基づき、会派の所属議員数に年額12万円を乗じた金額が交付されます。各会派の経理責任者は、毎年度、政務活動費の収支の状況を議長に報告し、残金がある場合は市に返還しています。

収支報告書と領収書は、議会事務局(市役所2階)で閲覧することができます。

(単位 円)

会派 (人数)	活動費総額 (12万円×人数)	概算(見込み)支出額の内訳					残金 (返還額)
		調査研究費 (視察研修)	研修費	広報費	備品購入費 (書籍)	要請・陳情 活動費	
平成クラブ (7人)	840,000	840,000					0
新政クラブ (6人)	720,000	644,080					75,920
日本共産党 (3人)	360,000			345,042			14,958
新風会 (3人)	360,000	158,830	88,550		33,912		78,708
公明党 (2人)	240,000	41,933	140,582			7,040	50,445

平成クラブ

唐澤稔、白鳥敏明、田畑正敏、
柴満喜夫、原馬、松澤嘉、宮原英幸

平成クラブは、11月初旬に徳島県の徳島市と上勝町を、2月中旬に岐阜県の多治見市の行政視察に行きました。



多治見市市長からお話を伺う

徳島市では、地域主体で運行の「地域自主運行バス」と、(株)くし丸社の、買い物困難者対応の「移動販売車の全国展開」について視察し、本市の移動販売車への補助制度創設に繋がりました。また上勝町では、寒波で主要産業のみかん栽培が打撃を受け、代替として、葉っぱ(つまもの)ビジネスを始め、高齢者や若者が参画し、今では1千万円以上売上の高齢者もいる等、町の活性化に繋がっていました。

多治見市では、各地区が運行

管理し、運賃の一部を行政と地区が負担する「地域あいのりタクシー」について視察し、本市における公共交通の改善提案の参考になりました。

新政クラブ

唐澤千明、野口輝雄、三澤俊明
黒河内浩、池上直彦、小林真由美

新政クラブは本年度以下のように多くの視察を行いました。
・岐阜県大垣市(子育て日本を
目指した支援事業)
・岐阜県郡上市(がんばれ子育て支援事業)
・岐阜県高山市(自然エネルギー促進事業・インバウンド)
・三重県多気郡多気町(多気バイオパワー発電所)

・三重県松阪市(市政の変遷と現状について)



高山市議場にて

多くの視察先の中から特に今後の市政の参考になったのが、高山市のインバウンド政策でした。

高山市では国内、国外を含めて観光情報を発信する多くの基地があり、そこを通しての宣伝と受け入れ体制の強化でした。なぜ、年間50万人もの外国人観光客が訪れるのかが分かり、伊那市政に役立つ情報を得ました。

日本共産党

飯島光豊、柳川広美、馬場毅

日本共産党伊那市議団は、交付された政務活動費を活用して、広報費で「議員団だより」を作成しました。議会報告を市民へ届けるために、全戸配布または新聞折り込みで、8月号・11月号・2月号の3回発行しました。それ以外に「市議団だより」を随時12回発行し、議会活動の周知に努めました。

「議員団だより」を読んだ市民からは「教室へのエアコンの設置は夏までに間に合うようにして欲しい」「ブロック塀の補助はもう少し増やして欲しい」などの意見が寄せられていて、市民の声を市政へ届けました。



日本共産党伊那市議員団だより

新風会

宮島良夫、二瓶裕史、飯島進

新風会は、滋賀県草津市及び富山県富山市の行政視察と、地方財政セミナーへの参加をしました。

視察① 滋賀県草津市「草津未来研究所について」

「草津未来研究所」は、地域の課題を解決するための実践的かつ戦略的な政策への取り組みを行うこと等を目的として、草津市総合政策部内に設立されました。研究・人材育成の手法として、とても興味深いものであります。

視察② 富山県富山市「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」

公共交通の利用が年々減ってきているところ、「歩いて暮らせるまち」



富山駅を中心としたコンパクトシティ

を目指し、公共交通の推進に手を付けたという話をお聞きしてきました。人口規模や面積等、大きく異なるところはありますが、非常に参考になりました。

公明党

前田久子、飯島尚幸

公明党は30年度の政務活動として、①群馬県高崎市の独立行政法人国立重度知的障害者施設のぞみの園、埼玉県白岡市の農福連携のアルファイノベーション(株)及び協力企業などの視察②衆参議員会館を訪問し、公明党国会議員へ国道153号伊駒アルプスロードと戸草ダムの早期建設促進の要望③地方議員研究会が主催する議員力向上を目指す講座の受講に取り組みました。

のぞみの園では、農業大地で



2つの講座を受講しました

青ネギ・白ネギの生産拡大に励む、主に知的障害の皆さんのパワー発揮の姿は、運営の独自性の素晴らしさに感動が幾重にも広がりました。農福連携事業の充実が求められる本市にとり、とても参考になる内容でした。

また、「役所を動かす質問の仕方」と「大人のひきこもり問題を考える」など、日常の議員活動の更なる充実のため、先進事例を学ぶ講座を受講しました。

平成30年度も13自治体の議会が視察に来伊されました。

- ◆ 移住定住促進プログラム
鳥取県三朝町議会・神奈川県八市議会・島根県安来市議会・新潟県上越市議会
- ◆ 幼保小連携プログラム
京都府福知山市議会
- ◆ ふるさと納税について
京都府亀岡市議会・山梨県甲州市議会
- ◆ 伊那市とライザップによる取り組みについて
山梨県甲州市議会・東京都国立市議会・埼玉県吉川市議会
- ◆ 自動運転サービス実証実験
山梨県南アルプス市議会
- ◆ 議会改革の取り組み
神奈川県八市議会・埼玉県鴻巣市議会・青森県五所川原市議会
- ◆ 議会のタブレット使用について
山梨県南アルプス市議会
- ◆ 南アルプスジオパークについて
徳島県三好市議会
- ◆ マウンテンバイクで山林再生
山梨県南アルプス市議会
- ◆ イーナちゃんバスの取り組み
新潟県上越市議会

※視察に来られた自治体には、市内で宿泊や食事をするようご案内しております。